



「安心して暮らせる高齢者への取組について」

安心して暮らせる高齢者の問題、課題について、タクシー助成事業、乗合タクシー事業、老老介護の現状を尋ねる。

(町長) タクシー助成事業は、町内のタクシー会社を利用した場合に料金の2分の1助成するが、第3期プロジェクト期間中に要件を見直し、令和7年4月から70歳以上であれば同一世帯に免許証を持っている人がいても利用でき、更新手続きをなくし無期限の利用可能として利用回数は月6回から10回に増やし、利便性向上に努めている。

乗合タクシー事業は、公共交通の空白地帯解消のため、目的地や経路が近い人たちが相乗りで利用できる交通手段に調整して運行は平日と土曜、午前8時から午後5時まで10便、料金は片道300円、小学生や障害者手帳をお持ちの方は150円で利用できる。また、令和7年4月から9月まで荒尾市シティモール行きと有明医療センター行きを月曜と水曜の週2回試行運行している。路線バス廃止で和水町立病院への乗り入れを行う等、利用者ニーズに努め、利用者アンケートを行って、利便性向上に努める。

また、老老介護は、介護をする側、される側の双方の身体的・精神的な負担増、「共倒れ」、社会的孤立、「認知介護」のリスク等の課題が考えられ、決して無理せず、助けを借りることが重要で、地域包括支援センターへ相談していただきたい。



タクシー料金助成事業は、今年度から70歳以上であれば同一世帯も免許証所持に関係なく利用できるが、周知はされているか。また、2分の1助成ですが、病院の待ち時間まで入れると高額になり往復したら結構払ったと、利用料金の見直しは？

(まちづくり課長) 半額助成であるが、待ち時間も含めたところの料金はタクシー会社の規定と思う。そういった声があれば、今後半額以外にも高齢者の利用を考えていく必要があると考えている。

自らが高齢でありながら、親、兄弟、姉妹等を支えている状況で、老老介護の対策は？

(健康推進課長) 老老介護は、「疾患管理が必要な夫と認知機能が低下した妻、身体機能が低下した夫と身体機能が低下した妻、こういった方々が介護を行っている。」といった相談が地域包括センターに寄せられていて、大半が介護認定、サービス利用の相談である。離れて暮らす子どもさんからの相談も多く、地域ケア会議を定期的に開催し、そこで社会福祉士、保健師、看護師等の参加により良い支援の検討を行っている。



文教厚生常任委員
広報常任委員

山口純子

高齢者、子ども、介護、病気の相談等があった場合、対応する課がわかりやすくなっているか？

(健康推進課長) 健康推進課で相談を受けており、地域包括支援センターで大丈夫です。必要ならば関係の部署に繋いでいく。

まとめ

高齢者の課題について尋ね、要望したが、超高齢者社会の現実を知った。町も様々な課題、財政状態を鑑みながら実施されており、国、県との連携を深め、日常の暮らしの買い物、病院、食事等の基本的なことは最低必要で、地元で暮らす条件だと思う。そのためには、私たちも地域社会と一体となり、様々な課題に取り組みたいと思った。





文教厚生常任委員長

井下忠俊

マーケティング

最近、マーケティングを取り入れている地方自治体が増えていると思うが、今後の町づくりに対しその必要性をどう考えるか？

(町長) 町の更なる発展の為には必要不可欠であると認識している。

既存のマーケティングと地方自治体におけるマーケティングの共通点は何だと思われるか？

(まちづくり課長) ニーズが一番だと考える。

どちらも顧客、つまり自治体においては住民の方こそが一番大事であると考えます。そして、その住民のニーズは時代・背景に併せ常に変化していくもので、同じように行政も変化していかなければならない。

マーケティングという市場調査により大事になるのが、①住民の方のニーズを南関町の課題として受け止められるか。②南関町の強みを生かせること。③近隣の市町村と比べ優位性を保てることである。そのような中、町づくりの一環として、企業誘致がよく話題になるが、南関在住の方の就業率はどれくらいか？

『マーケティングについて』 『ランドセルの現状について』



動画視聴できます

(まちづくり課長) 割合で言えば16.9%である。

企業誘致を推進していくのであれば、それに伴って南関町の住人の方の就業に繋げ、何より南関町に住んでもらえることに繋がらなければ、企業誘致の本来の目的に到達しないのではと思う。仕事が増え、人口増加につながる。それにより町の税収もアップする。そこから次の施策・事業に繋げる。そこに南関町としてプラスのスパイラルが生まれる。それこそが企業誘致におけるマーケティング戦略の目的だと思うし、そこを目指すべきだと考える。また今は、町外からの就業者が多く、そのために生まれる交通渋滞などの問題も合わせて取り組むべきだと思う。

また、デジタルマーケティングという言葉があるが、南関町では取り入れているか？

(総務課長) LINEを採用して、それを利用することにより町の情報はすべて見れるようになっている。

デジタルマーケティングには、町外に向けた街の魅力の発信と、住民向けの情報発信があるが、特に住民に向けた発信については、調べたいことを探しても、その情報にたどり着けないようであれば、その情報は無いに等しい。できるだけ簡単な検索から入れるようにしてもらいたい。

今後、新たに【マーケティング戦略室】というものを設けて、行政のトップや課長達の思いも大事だが、それ以上に一から住民の方達の声を聴けるようなスタイルを取ったかどうかと思う。

(町長) 現在そのような考えはなく、各課に担当がいて、打ち合わせ会議の中で十分対応できると考えている。

ランドセル

ランドセルについては、その価格の高騰や重さなど問題になっているが、逆にその機能性や安全性においても、良くなってきている。児童にとっては必需品である故に、価格の補助・または共通のランドセル等、各自治体においても検討されている。アンケートを取り何を望んでおられるか考え、今後家庭や児童の負担の軽減に努めてもらいたい。



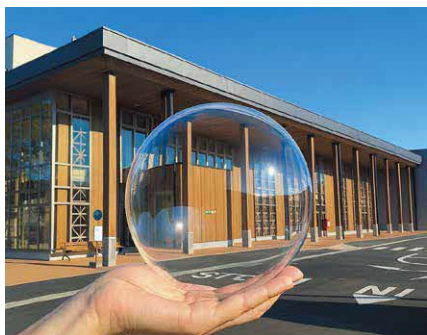
まとめ

行政においてその対象は、あくまで住民の方達である。その中で、行政のトップとして指導者だけでなく、5年先、10年先を見据えた演出家としての役割を、マーケティングの必要性を考え、幅広く住民の方達の声に耳を傾けながら、町づくりに努めて頂きたい。





「町の公開度」と「線状降水帯発生時に情報伝達のスピードアップと一元化」について



町の公開度について

町の情報公開度について、どのように自己評価しているのか？

(町長) 適正に運用しているものと判断している。情報公開度に対しての自己評価は、規定がないので行ったことはない。

自己評価というのは特に基準があってするものじゃなく、通常の業務の中でも、自己評価はしないと、改善が必要なのか分からず次に進めないのではないのか？

(総務課長) 条例に基づいてやっている。評価するのは自分達より住民の皆さんだと思う。

職員の事件・事故等発生時の即時公開については？

(町長) 南関町職員懲戒等審議会を開催し「処分」を決定するまでに時間を要するので、即時公開に至っていない。

懲戒処分会議を開いて何日ぐらいかかって公表される形になるのか？

(総務課長) 事件・事故の内容にもよるが、1週間から2、3か月かかる。

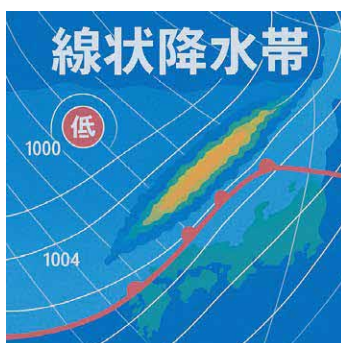
刑事事件になると一般的に新聞紙上ではすぐ出るが、その場合、町はどうするのか？

(総務課長) 名前が A さん B さんとかまでは町も公表するが、事件によっては裁判の結果が出ないと、真実が出せない。

外郭団体、交付金先団体、指定管理者等を含め、町全体の情報公開度を引き上げるために、統合的に制度化する考えはないが、組織の透明化に努めていただくことを望むとの答弁だった。町全体として同じ姿勢でやっていこうという積極的な働きかけが必要だと思う。外郭団体の社会福祉協議会は会長が佐藤町長であり、考え方を会長として理事会に示すことはできないのか？

(町長) 事件後に理事会で、私からも、定款を変更すべきじゃないかという提案をしている。熊本市の社協の事例も調査して事務局案を作っており、理事会に掛ける形で進んでいる。透明度が高まるような定款にしたいと考えている。

線状降水帯発生時における情報伝達のスピードアップと一元化について



線状降水帯の情報伝達経路と時間的な直前の情報は？



議会運営委員長
文教厚生常任委員

中村正雄

(町長) 熊本地方気象台から防災担当者の携帯へメールが入り、臨時の気象解説 Web 会議が1日前と半日前にあるので、総務課長以下が参加し、町長に報告相談があり警戒体制に入る。

半日前の Web 会議後の進路変化情報は、どこからどのように入ってくるのか？

(総務課長) その後に、南関町に行きますよという情報は一切来ない。自分たちで判断している。

(町長) 私の方のホットラインには、気象台長そして菊池川河川事務所から携帯に何時であっても入るので、総務課長へ連絡して対応判断する。

町民に対しての情報発信の一元化があれば漏れがなくなるが、できないなら、この情報はこちら、別の情報はこちらを見てくださいと、一覧表にして、全家庭に配布したらどうか？

(総務課長) いろんなところにいろいろと情報が出ているので、こちらを見てください的な周知を考えて行く。

AI の発達が予想以上に速く進んでいる。AI の活用を早く導入することで、より町民の安心安全に繋がるよう検討もお願いしたい。



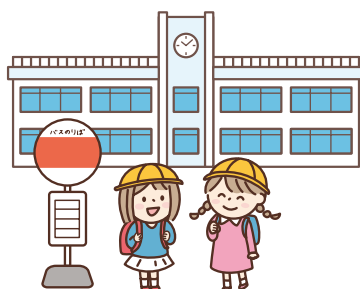
文教厚生常任副委員長
広報常任委員
議会運営委員

福山 美佳

『乗り合いタクシーの多世代にむけた利用促進と環境整備』
『給食センター及び学校体育館への空調設備等の設置』



動画視聴できます



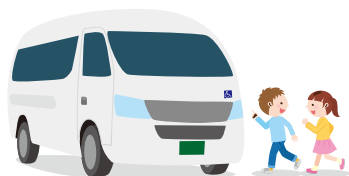
乗り合いタクシーの多世代
にむけた利用促進と環境整
備について

周知方法や利用支援等、多世代が利用しやすい仕組みづくりを更に進めるための今後の方針について尋ねる。

(町長) 町内の交通空白地域の解消に繋がり、特に移動手段が困難な高齢者等においては利便性のある交通手段であると考え。利用方法、利用料金、利用料金の全額または半額免除の対象及び運行形態等は、「町のホームページ」「広報なんかん」に掲載している。

現状、主な利用者は高齢者だが、当初、小学生料金は一般利用料金の半額とした料金設定をし、子どもたちの移動手段の一つと考えていたが、浸透していないのが現状である。

今後は、親世代のご意見等もお伺いする機会を設けるなど、更なる利便性の向上に向け取り組む必要があると考える。



小中学校に乗り合いタクシーの乗降場を設置する考えはないのか、町の考えを尋ねる。

(町長) 新しく生まれ変わった図書館〈このみ ch-i〉にも、学生の利用も増えることが予想される。学校から図書館へ直行の移動手段として、乗合タクシーの利用は有効と考えられるが、ニーズがどれ程あるのかも含め各学校や PTA、教育委員会を交えた協議が必要であると考えている。

多世代に向けた乗り合いタクシーの利用拡大のため、地域行事やイベントと連携した、試乗体験や乗り合いタクシーの展示等を行い、利用促進キャンペーンを行う考えはないか町の考えを尋ねる。

(まちづくり課長) 交流拠点施設〈ukara〉のグランドオープンに合わせて、乗り合いタクシーの利用を促進するキャンペーンを現在検討している。オープン後の 1 週間程度の平日を乗り合いタクシーの利用促進、ukara のグランドオープン記念として、町内便を無料で運行するという企画を検討している状況。

給食センター及び学校体育館へ
の空調設備等の設置について

給食センターにおける調理員の労働環境改善や食の安全性の確保を鑑み、空調設備等の導入を検討しているのか、現状を伺う。

(教育長) 調理員の労働環境の改善を図るため、給食調理室等の空調設備の必要性は高いものと認識している。

現在の給食センターは、作業場には空調設備は設置されておらず、昨今の気温上昇が叫ばれる中、作業中望ましいとされる気温 28 度以下には程遠く、過酷な労働環境は早急な改善が必要と考えるが、導入については、多額の費用が必要となることから引き続き優先度なども勘案し具体的な検討を進めていきたいと考えている。

学校体育館に空調を設置することで、児童生徒の教育環境が改善されると同時に、災害時の避難所環境整備を図れると思われるが、今後の計画について問う。

(教育長) 体育館は、児童・生徒が体育の授業や部活動で使用するだけでなく、大規模災害発生時には、避難所としても利用される可能性がある施設であり、空調設備の必要性については認識をしている。

現状、具体的な空調設備設置予定はないが、現在、南関町立学校のあり方検討委員会で、将来に向けた学校のあり方について熟議を重ねており方向性が決定後、各学校の施設等の整備について計画していきたいと考えている。



『町のお米の政策は、もっと思慮深くあってほしい』

南関米のブランド化

南関米のブランド化についての取り組み内容や進捗状況、実現する時期について問う。

（町長） 令和6年度に各種農業団体の長、JA、南関ふるさと応援団、米集荷業者の皆様にご参集いただき、「南関米のブランド化」に向けた基本的な方向性や課題に関し知見を有す方々のご意見や見解を伺う検討会議を行ってきた。今後の展開は、関係機関とも連携した試食販売や広報活動を通じて市場の反応を確認し、更なる周知、啓発に努めるとともに、南関米ブランド推進協議会等の組織化も図り、チームとして推進していく。

ブランド化を明言されて1年経つが、ご意見を伺うレベルで具体化には程遠く、この件についてもスピード感がない。1日も早く推進協議会を設置し、実現する時期の目標に向けた基本方針を立て、スケジュール管理をやってその仕事の成果を積み上げる。そういう姿勢じゃないと成果にはつながっていかない。国は主食米の増産に踏み切った。あと5年もすると、米余りになってお米の価格が下落する可能性は高い。こういう時期だからこそ、5年後を見据えて、南関町が一丸となって、地道に南関米のブランド化に取り組んでほしい。



南関米のブレンド化

お米に関し、ふるさと応援寄付金の返礼品業務を南関ふるさと応援団と別の町外専門業者に委託する動きがあるが、具体的な内容を問う。

（町長） 本町のR6年度ふるさと納税寄附額は、1億5千800万円で、長洲町6億1千200万円、玉東町11億4千100万円、和水町19億1千400万円と近隣町とは大きく差がついている。

要因分析すると、近隣すべての町で、ふるさと納税の運営をプロモーションする専門の業者に委託されており、昨年は令和の米騒動と重なり、米の返礼品が増えたようだ。

今回委託した専門業者のノウハウを南関町にも生かしてもらおうと、良い方向へ向かい納税額が伸びると予想している。

納税額を増やすことによって高度化事業により農業を支える人たちにも還元したい。

南関米が不足している中、米の集荷に関し糶摺り業者の部会に協力を依頼することは、地元のJAやお米屋さん等に対する民業圧迫にならないか。

（副町長） 契約は、町外専門業者と生産農家個人の契約になる。どこへ米を出されるかは、生産者の皆様が決められることでもあり、町が強制するものではありません。

ただ、新たな取組になるので、糶摺り部会を通じ、農家の皆様へ周知を図ったところである。



広報常任委員長
議会運営副委員長
総務産業常任委員

伊藤 博長



南関の美味しいお米と他の熊本県産米をブレンドした返礼品を作るのか。

（副町長） 南関米ブランド化は推進していくが、ふるさと納税とは、区別化していく必要がある。具体的には、ふるさと納税のルールに則り、ブレンドした米を熊本県産米として出品することが一つと、南関産米のみを販売することが一つ。料金設定も、当然南関産米が高額となるが、どちらを選ばれるかは、消費者の拘りだと考えている。

町のお米の政策は、理念もなく（ブランド化とブレンド化は全く逆のこと）、足りないお米の確保に動くことは民業圧迫につながりかねず、また南関米のブランドイメージを損ないかねない。

町外専門業者が儲かることで、一時的に寄附額は増えるかもしれないが、農業の中心であるお米の政策は、長い目で見て、もっと思慮深くあってほしい。

GET21 なんかん実行委員会

& 広報委員



Q 今回取材させていただいたのは、「GET21 なんかん」の一つのイベントである「GET21 タイムカプセル」の開封が来年の元旦とお聞きしました。この件について教えてください。

A 当時の町内の保育園児から小中高生まで全員とたくさんの人たちの思いや作文等を入れて埋設している「GET21 タイムカプセル」は、25年後に開封する計画であり、それが来年の元旦となりました。

実行委員会では、タイムカプセル開封式にあたり、当時の実行委員に新しい仲間を加え、色々な企画を準備しています。

まずは、10月上旬に25年間保管していた自分宛に書いていただいた案内はがき約1000通を発送しました。そこには、25年前の自分からメッセージが書かれています。次に、案内はがきによるインスタグラムを活用した広報活動です。さらに、「未来に残したい南関」の作品募集をしています。

現実行委員会では、このような活動を通して、25年越しの宿題を提出できそうです。

この開封式が単に過去を振り返るだけでなく、これからの南関町の発展と私たち自身の未来を考えるきっかけになること願っています。

Q GET21 なんかんとは

A 「ふるさとの大津山がクリスマスツリーのようには輝くならば、どんなにきれいで、多くの人がとに夢と希望を与えることができるのではないだろうか」と初代実行委員長の話に、ふるさとを愛する有志たちがその話を疑いながらも1人、また1人、そして多くの人がとが集まり組織での取り組みを行うまでに至り、「どうせツリーを作るのなら世界一のツリーを作り、カウントダウンや野外コンサートもやろう」ということになり実行委員会が発足しました。

本イベントは、「GET21 なんかん音と光のカウントダウン 2000-2001」で、西暦2000年と2001年（21世紀）を迎えるための2年間に限り実施し、1つ目はシンボルとなる「大津山の夢のツリー」、もう1つは「新年を迎えるためのカウントダウンフェスティバル」であり、平成12年度ふるさとイベント大賞の中で、ミレニアム・世代越え部門賞を受賞しました。



「大津山の夢のツリー」

Q 当時の思い出や苦労したことはありますか。

A 大津山の夢のツリーは、全体で、約40haの民有林であり、すべての所有者より快く承諾をしてもらいツリー設置が可能となりましたが、配線の全体延長が34kmと長く重量があるために、人力作戦では山への搬入だけでも重労働であり、電球の設置にいたっては山林のほとんどが高さ20m以上もある広葉樹が対象となり、林業の専門家以外では設置不可能という状況でした。しかし、このような困難な状況の中でも、延べ500人以上のボランティアの協力により見事に完成にこぎつけました。まさにこの活動に参加した者の心が一つになりました。

また、カウントダウンフェスティバルは、定期的で開催したイベントの総決算として当町出身者を中心とした出演者で、野外コンサートやカウントダウンセレモニーとともに神楽や古代楽等地域の歴史や文化に触れながら、音と光にこだわりを持って地元の素材を活かして実施しました。



「電飾設置作業」



今回企画されているタイムカプセル開封式の具体的な内容や今後の活動についてお聞きします。



現在、「タイムカプセル開封セレモニー」に向けて活動中です。その中で「未来に残したい南関」の作品募集をしております。

タイムカプセル 開封セレモニー

日時：2026年 元旦 正午

会場：南関町 B&G 海洋センター(予定)

11:00 開場

11:30 開会

12:00 開封

13:00 閉会

実行委員会による手紙や品物の展示や参加者の作文等の受け渡し。「未来に残したい南関」の作品をスライドショーで投影。

詳細は、GET21 なんかん
公式Instagramを参照



「未来に残したい南関」 の作品募集!

(締切：2025/12/20)

現在、googleフォームで
作品を受け付けています。



「未来に残したい南関」の作品を募集し、南関町の未来へ発信したいと思います。多くの方の作品をお待ちしています。

【作品趣旨】 未来に残したい南関

【公開】 上記のタイムカプセル開封セレモニーにて、作品をスライドショーで投影

【応募条件】

- ①写真・詩・短歌・絵画（それぞれにメッセージを入れる）
- ②データ形式は、pdf、または jpeg、等の写真データ
- ③南関町に縁のある方で年齢不問
- ④応募はひとり1点のみでデータサイズは10MB まで



「カウントダウンのステージに立つ子どもたちの多くがタイムカプセルに自分に宛てた手紙を入れました」



GET21 なんかん実行委員会

前列左から2人目

塩 山 治 男 さん (初代委員長)

前列左から3人目

多田 隈 保 さん (現委員長)

後列左から2人目

武 田 光 弘 さん (二代目委員長)

※その他会員 約17名

21世紀を迎える年に大津山に巨大ツリーを灯したGET21 なんかん。当時は感動と記憶に残る素晴らしい活動でした。そのレガシーとして2025年へのメッセージを詰めたタイムカプセルの開封セレモニー。さらに「未来に残したい南関」の作品募集も楽しみで、また素晴らしいイベントになるでしょう。

大変だと思いますが、実行委員会の活動はとても素晴らしい活動であり、議会も応援します。

広報常任委員会



「タイムカプセル入場！（2000年12月31日）」

私が考える、南関町の未来

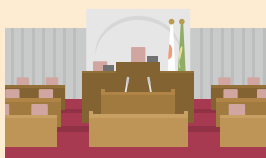


南関中3年
うえだ ゆづき
上田 結月さん

私は未来の南関町も今と同じように優しい町であってほしいと思っています。そう強く思ったのは、総合的な学習の時間の地域貢献活動で、サロン活動に参加させてもらったのがきっかけです。私たちは、サロンの方と触れ合うにあたり、折り紙と糸電話の伝言ゲームを用意していきました。これらは昔からの遊びで、異年齢でも盛り上がると思ったからです。折り紙ではお花と一緒に折りました。するとおばあちゃんが「今の折り紙はすごかね。」と喜んでくれました。糸電話では、「カレーライス」や「アイスクリーム」などの誰でも知っていて言いやすく聞きとりやすい言葉を伝言しました。私たちとサロンの方は初対面でしたが、とても盛り上がりました。加えて、サロンの方は、緊張していた私たちに優しくたくさん話かけてくださいました。このように、昔からあるものを思いやりをもって発展させていくことで、南関町はずっと優しい町であり続けると思います。私はこれからも、南関町の方々と関わりをもち続けていきたいです。

南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

議会を 傍聴しませんか



定例議会は年に4回
3月、6月、9月、12月に開催。

- どなたでも傍聴できます。
- 定員 30人

議会日誌

■7月

- 7月10日(木) 全員協議会
- 7月17日(木) 広報常任委員会
- 7月22日(火) 町村議会常任委員長等研修会
- 7月29日(火) 広報常任委員会
- 7月31日(木) 広報常任委員会

■8月

- 8月12日(火) 総務産業常任委員会
- 8月14日(木) 全員協議会
- 8月19日(火) 議会運営委員会

■9月

- 9月1日(月) 第4回定例会
- 9月2日(火) 第4回定例会
総務産業常任委員会
文教厚生常任委員会
広報常任委員会
議会運営委員会
- 9月3日(水) 全員協議会
- 9月4日(木) 全員協議会
- 9月5日(金) 第4回定例会
- 9月29日(月) 広報常任委員会

ティーブレイク



「暑かですねえ」

今年の夏のあいさつ代わりに言葉です。ここ最近では、毎年のことですが、今年は特に多く「暑い、暑い」を言っていたと思います。地球温暖化が原因と言われていますが、幼い頃の夏の暮らしを思い出すと信じられない現状です。夜は「かや」で寝て、うちわを仰ぎ、鈴虫の音色で、眠りについたらのを思い出します。エアコンが必要な生活が定着している今、風鈴の音が恋しいのは私だけでしょうか。

(山口純子)



□ 発行責任者

議長 立山 秀喜

□ 編集(広報常任委員会)

委員長 伊藤 博長
委員 山口 純子

副委員長 矢野 修一
委員 福山 美佳